

福生出身の基地従業員 米空軍年間最優秀憲兵隊員賞を受賞 *Fussa native receives AF Security Forces of the Year award*

May 8, 2024

By Airman 1st Class Dave S. Calcote
374th Airlift Wing Public Affairs

第374憲兵中隊でガードスーパーバイザーを務める福生市出身の原達也さんがこのほど、横田基地での功績が認められ、空軍優秀憲兵隊小隊部門民間人スーパーバイザー・オブ・ザ・イヤーに選出された。

この空軍レベルの賞は、米空軍とその同盟国の防衛と安全保障任務に顕著な貢献をした個人に授与される。この賞は、空軍の使命を支えるために、卓越したリーダーシップ、功労、革新性、そして手腕を発揮した民間人従業員を表彰するものである。

福生で育ち、横田基地のそばに住んでいた原さんにとって、福生にある基地の存在が、基地と関わりをもつことに興味を抱いたきっかけとなった。

「毎年、基地では友好祭が開催されていて、いつも訪れていた。子供の頃からここで働くことが夢だった」と原さんは話す。

1990年、原さんの夢が叶い、憲兵中隊のシビリアン・ガードとして働き始めた。第374憲兵中隊は、横田基地の人員、資源、運用の安全を維持する責任を担っている。原さんは30年以上にわたり憲兵隊に勤務し、現在は80人以上の日本人シビリアン・ガードのスーパーバイザーを務めている。

第374憲兵中隊下士官責任者ブランディ・コリンズ最上級曹長は「原さんは友好祭における警備のエキスパートだ。常に仕事に集中している原さんの姿がそこにある」と原さんを称える。

友好祭は、横田基地が基地の一部を一般開放して行う毎年恒例のイベントで、さまざまな航空機の展示、ライブ・パフォーマンス、日米の軍事態勢の実演などが行われ、毎年10万人以上の来場者が訪れる。

非番の時には、原さんは自身の時間を数々のボランティア活動に費やし、地元の2つの小学校の運動会の役員を務め、保護者のボランティア105人を率いたり、12のイベントを計画したり、賞品に充てる1400ドル相当の資金を集めるなどの活動に従事した。

コリンズ最上級曹長は「彼の長年にわたる経験と継続力、そして自身の時間をボランティア活動に充てる献身的な姿勢が、この賞のノミネートにつながった。ソーシャルメディア上のコメントを見れば、原さんがいかに多くの空兵の人生に影響を与え、尊敬を集めているかを知ることができる」と述べた。

原さんは、シビリアン・ガードの仕事は大変なこともあるが、彼の成功と今回の賞の受賞は上司たちが常にチームをサポートしてくれているお陰だと実感していると言う。

空軍優秀憲兵隊小隊部門民間人スーパーバイザー・オブ・ザ・イヤーは、日本人パートナーとしての原さんの貢献を証明するものである。原さんの専門知識と献身は、第374空輸航空団の共通目標である自由で開かれたインド太平洋地域の安全確保に大きく寄与している。

